

平成28年12月14日		学校教育目標	
家庭数	北九州市立中尾小学校	「すこやかに おおらかに たくましく伸びる児童の育成」	
	学校だより 臨時号	○ 明るく、素直で、豊かな心を持つ児童	
校長 倉本京子		○ 自ら考え、知力を磨く児童	
		○ 健康で、たくましい児童	

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	学力の状況
国語A	・漢字の読み書きについては、全国平均と同等の正答率だった。 ・目的や意図に応じて収集した情報を関連付けながら話す力、複数の情報を基に読む力に課題がある。 ・ローマ字の正しい読み書きに課題がある。	全国平均正答率との比較
		下回っている
国語B	・目的や意図に応じて、グラフを基に自分の考えを書くこと。話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿った質問を書くことについては全国平均をやや上回っている。 ・目的に応じて読む力に課題がある。	全国平均正答率との比較
		上回っている
算数A	・四則計算と不等号の問題については正答率がよい。 ・分数の計算、約分、1を超える割合を百分率で表す場合の基準量と比較量の関係の理解について課題がある。	全国平均正答率との比較
		下回っている
算数B	・数学的な考え方で説明し記述する問題や、図形の構成要素を基に判断し理由を説明する問題については正答率がよい。	全国平均正答率との比較
		上回っている

②児童質問紙による調査結果の概要

・早寝、早起き、朝ごはん等の生活習慣は身に付いています。

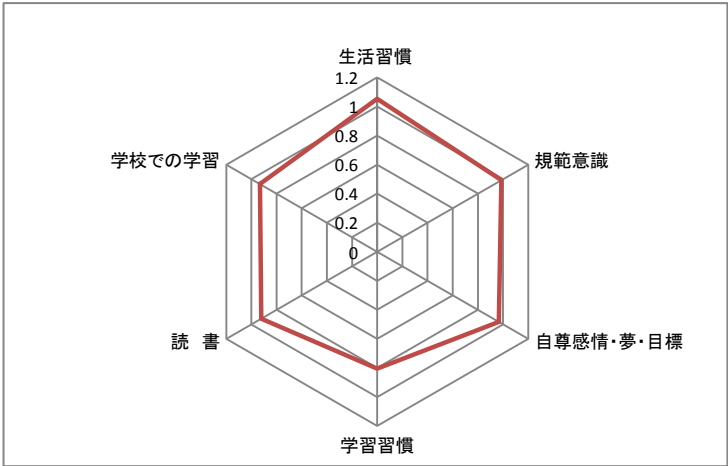
・学校での学習では、友達と話し合う活動をよく行っています。しかし、話し合いから自分の考えを広げたり深めたりすることはまだ不十分です。

・家庭学習では、学校の宿題は行っていますが、自分で計画を立て予習や復習を行っている児童の割合は低い状況です。

・図書室を利用する児童が少ない状況です。

・自尊心は高く、将来の夢や目標をもっている児童及び、人の役に立つ人間になりたいという気持ちを持っている児童は多くいます。

・規範意識も高く、学校のきまりを守る気持ちも育っています。



2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・家庭学習の時間は1～2時間程度の児童が多いです。
・学校の宿題はほぼ全員が家庭で取り組んでいます。また、学校で自学の取組を行っていることもあり、興味・関心のある内容についての自主学習を行っている児童も多くいます。しかし、計画的に予習や復習に取り組んでいる児童は少ないようです。
・今後は、自分の課題を把握して家庭学習の計画を立て、予習や復習にも取り組むことができるように支援する必要があります。

② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・テレビやDVDを見る時間、テレビゲームをする時間は、全国や本市と比較して少ない状況です。
・携帯電話やスマートフォンを持っている児童の割合は、全国や本市と比較して少ないですが、持っている児童の使用時間が長いようです。今後は、使用時間の短縮について家庭と連携して取り組む必要があります。
・「学校に行くのは楽しいと感じる」、「お家の人も学校の話をよくする」などの割合が高く、家族との関係が良好な児童が多いです。将来の夢や希望をもっている児童も多く、自己肯定感も高い状況です。今後も、児童を誉めて伸ばす指導について家庭と共通理解を図って取り組むことが大切です。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・中尾タイム(掃除時間後の10分間)で全校一斉に10分間読書、100ます計算や漢字、言葉の学習、計算などを行っています。
 - ・朝自習では、音読タイムや視写タイムなどを実施しています。
 - ・休み時間に、その月の音読暗唱を校長・教頭・教務で聞き、合格シールや賞状を渡しています。
- ◎ 過去問題やアシストシートの活用
 - ・アシストシートやWEB問題を導入で使い、基礎基本の徹底を図っています。
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」にしています。答え合わせをするだけでなく、間違えた問題の書き直しもきちんとさせています。
- 学習指導の工夫
 - ・学習の際の話型やノートのとり方を、低学年、中・高学年の発達段階にあわせて、指導しています。
- 重点的な取組
 - ・考えさせる授業、児童が互いに考えを出し合い練り合う授業を目指しています。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・自主学習ノートの活用(1年生は2学期から)を進めています。
 - ・家庭学習時間を、低学年は30分以上、中学年は45分以上、上学年は60分以上を目安に推進しています。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」は、その活用状況を定期的に点検します。
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用します。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・家庭教育学級や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整えるようにしています。
 - ・毎年4月に「家庭学習の手引き」を配布し、学校だよりの中にも学習に関するコーナーを設ける等、家庭学習の大切さを保護者にも呼びかけています。